

文 化 財 学 習 会

ふ る さ と 探 訪

テーマ 郷東の史跡を訪ねる

講 師 川崎 正視

(高松市文化財保護協会事務局次長)

平成 2 8 年 9 月 2 5 日 (日)

共 催 高 松 市 歴 史 民 俗 協 会
高 松 市 文 化 財 保 護 協 会
高 松 市 教 育 委 員 会

1 郷東町の地理・歴史

古い地図では、香東川と本津川が合流して海にそそいでいて、鶴市町の北部から郷東町にかけては河原や海であった。地名の由来は、この合流していた大きな江（入江）の東側の洲が「江東」と呼ばれ、さらに「郷東」となったのではと考えられている。

寛永十九年（一六四二）の小物成帳に飯田新浜として塩十三石二斗、貞享元年（一六八四）高辻帳に石高九十九石余が記されており、郷東村の成立は江戸初期と思われる。

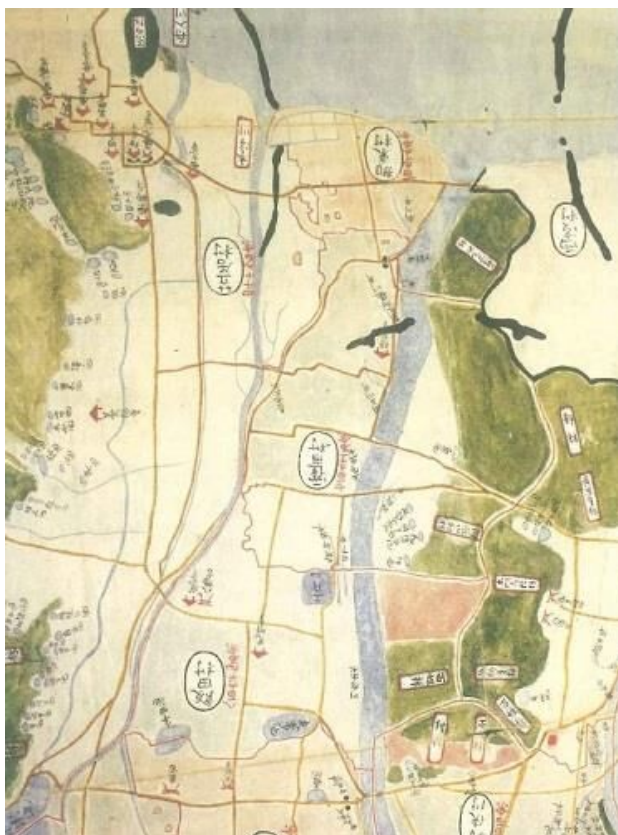
明治二十三年（一八九〇）	飯田村、鶴市村、郷東村が合併し、弦打村に。
明治二十四年（一八九一）	九十七戸、五百二十一人
昭和三十一年（一九五六）	弦打村が高松市に合併し、郷東町に。
平成二十八年（二〇一六）	千六百十六世帯、二千八百八十九人 (八月一日時点)

2 弦打浜塩田

前出の小物成帳のとおり、江戸時代に開かれた塩田ではあるが、新たに慶応二（三年（一八六六）六七）に七・三ヘクター、明治十（二十五年（一八七七）九二）に

現在は埋め立てられ乾船入公園と排水ポンプ場となっているが、以前は郷東町及び

3 ひょうたん川



江戸時代の弦打地区（高松藩領絵図香川郡西）

※地図の方角は、北が上になっています。



昭和30年頃の弦打浜塩田

八・八ヘクタール、明治四十〜四十五年に十六・六ヘクタール開かれた。入浜式の塩田であったが、昭和二十八〜三十三年（一九五三〜五八）にかけ流下式に転換され、昭和四十六年に廃止となった。

鶴市町北部には本津川、香東川へ流れ出る川の出口がなく、ここから海に流れ出ていた。ひょうたん川と呼ばれ、港でもあった。

ひょうたん川は、両岸の塩田への石炭などの搬入や塩の搬出にも港として利用されていた。また、岡山方面からの肥えとり船も着いていたという。

さらに昭和二十九く三十九年（一九五四く六四）にかけて、北側の沖合に弦打港・貯木場が整備され、港を囲む岸壁には木材工場が並ぶ木材工業団地が造られたが、今はもうなく、プレジャーボートの係留地等になっている。

4 元の海岸堤防

江戸時代末頃の古地図には、現在の海岸道路（さぬき浜街道を東西に斜めに横切った道）が海岸堤防となっていて、西方の陸側には、塩田の碁盤状水路と考えられる表記が見られる。

明治以降、塩田が海岸堤防の北・海側に造られたが、元の堤防部分の標高が高いためか、乾地区の集落は海岸堤防上に添って形成されていた。

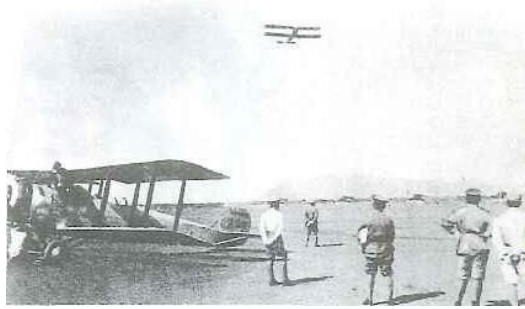


元の海岸堤防

5 愛国飛行場跡

昭和九年（一九三四）にわずか二ヶ月ほどの工事で弦打浜塩田と周辺農地を埋め立てて造られた。滑走路は八百メートル。本格的な飛行場としては使われず、グライダーの練習場として使われた。

滑走路が短く本格的な飛行場として機能しなかったことから、太平洋戦争末期の昭和十九年二、五月には、林飛行場が造られ、昭和二十年八月の終戦を迎えた。



昭和9年頃の愛国飛行場

6 高松競馬場跡

昭和二十二年（一九四七）愛国飛行場の跡地内の東部分に県営高松競馬場として開設された。南北に長い長円型のコースであった。

昭和二十二年十二月に第一回競馬開催。以後県営、市営、弦打村営で開かれたが、昭和二十九年七月の弦打村営競馬を最後に閉鎖された。

その後、昭和二十九年九月に県自動車学校、続いて運転免許試験所が開設。昭和三十年代には、香川県高等技術学校、県消防学校、県警察学校が建設された。さらに、平成十一年、海側に高松市食肉センターが造られている。

7 一本松

産業道路と海岸道路（さぬき浜街道）の交差点南西で、元の海岸堤防上にある。江戸時代末期、海岸堤防上に一本の松が自生し、一本松として親しまれていた。昭和初期に枯れたが、再び植えられた。



一本松

8 御番所跡（海見邸）かいみ

元の海岸堤防から少し陸側で、予讃線と産業道路の立体交差点南東に海見邸がある。江戸時代、城下に船をつけるのが困難な場合に、郷東に上陸したようで、舟番に御用提灯を渡して見張らせた。このような舟番をする役目であったので、この家を「御番所」と呼んでいた。また、舟番をする家であったので「海見」というのだとも言われている。

9 弦打土地区画整理

昭和四十年（一九六五）事業認可、昭和四十八年換地処分で区画整理事業が施行された。北は旧国道十一号線から、そこより南へ約一キロの範囲で、事業が施行され、昭和四十五、六年頃を中心に工事が進んだ。合わせて郷東から檀紙を結ぶ県道百七十六号檀紙鶴市線（通称・産業道路）も整備された。

10 香東神社

（こうとう）



香東神社

藩制時代の香東の渡しを弦打側に渡って堤防を西に下りて直ぐのところにある。弦打区画整理事業のため場所は移転していないが境内が小さくなっている。元は中津から郷東、新地、乾へと続く道から参道があり、境内は今の産業道路あたりまでであった。神社には「香東神社」の扁額がかかっており、「こうとう神社」と読む。三宝の神を祀っている。

また、社殿は珍しく北向きで、北西にあった塩田（江戸時代の塩田で前述の弦打浜以前のもの）に向

かつて建てられていて、元は塩釜神社でもあった。

宵祭りの十月第二土曜日夜には、獅子舞のほかに神楽が奉納されており、社殿の右手前に舞台が設けられる。高松市西部に点在する里神楽、素人神楽の一つで、香東神社のお神楽はなかなか勇壮である。

岩田神社境内外末社であり、社殿西側には、地神さんと水分神社が祀られている。

11 香東川渡し場跡

こうとうがわ

郷東橋を南に百メートルの西岸堤防に渡し場跡の石碑がある。石碑から北に向かって堤防を下りる坂は、昔の渡し場へ降りる道そのままだという。明治二十四年頃までは、ここには橋が架けられておらず、渡し船が使われていた。冬季など水量の少ないときには、歩いて渡れたという。石碑には、与謝蕪村が明和四〇五年（一七六七）六八）ごろ高松に立ち寄ったときに、この地を惜しんで詠まれたと言われている句が刻まれている。

「炬燵こたつ出て 早あしものと 野河のがわ哉」

また、石碑裏面には、松平頼重が、寛文六年（一六六六）に対岸の渡し場に口銭場を設け、松葉・柴・萱・竹木類を城下に持ち込むものから口銭を徴収していたとある。

12 旧丸亀街道

生駒氏治政期以降、高松城と丸亀城・金毘羅への往還として成立したと思われる。渡し場を渡って堤防上を左折南進し、四百メートルあたりから堤防を下りて直ぐのところに「一里塚」があったが、区画整理によってなくなっている。

堤防を下りての鶴市町から飯田町内の旧丸亀街道は、蛇行した形となっており、古



香東川渡し場跡石碑（表面）



香東川渡し場跡石碑（裏面）

い本津川の堤防に沿ってつけられたのではと思われる。

13 香西道・旧国道十一号

丸亀街道は郷東橋を渡って左折南進するが、香西道は直進西進する。この香西道も、古くは当時の海岸沿いに造られたものと思われる。

昭和二十七年（一九五二）に郷東から香西への旧の国道十一号線が整備されたが、ほとんどが香西道にかぶさって整備された。予讃線の西側から南側に香西道の一部が残っている。

昭和三十年代には、国道十一号沿線に工場などが進出した。

14 二軒屋・口銭場

にけんや

渡し場の東（高松）側で松岩寺手前あたりまでを、二軒屋と呼んでいた。香東川の渡し守とお茶屋があったと言われている。渡し守は、渡しの船頭と、口銭場を受け持っていたという。

すみや

一方、西側には茶屋兼宿屋の住屋があった。また、渡し場は口銭場でもあり、渡し場西側では、通行税として、松葉・柴・萱・竹木類などに口銭を取っていたことから、

口銭場と呼ばれていた。

15 郷東橋

古く（明治時代頃）は、香東橋と表記されていたが、現在は郷東橋と表記。

明治二十四年（一八九一）木橋が架かる。明治四十一年全面改修の木造の郷東橋が架かる。現在のコンクリート橋は、昭和二十七年（一九五二）に開通。昭和四十三年に四車線化した。

海岸道路の郷東大橋は昭和六十一年に開通した。

現在、郷東橋の北左岸堤防に大きな松が二本残っているが、以前は、堤防の両側に大きな松が林立していた。

16 松岩寺

しょうがんじ

西宝町三丁目にある浄土宗の寺。郷東橋を東に下って右山側にある。開基は江戸初期で、松平藩主の腰元の隠居所として高松城下の西の橋近くに建てられたと伝わって



明治41年の香東橋開通式

いる。昔はすぐ北側が海で、波打ち際に丸亀街道・香西道が通っていた。境内には大きな岩があり、石清尾山の北端で観音崎と呼ばれていた。岩の下に岩窟があつて、石の観音像が六体祀られている。また、左端の観音様はマリア観音と言われ、隠れ切支丹説もある。

境内北西角に「香西浦毘沙門天 是より十八丁」の標石がある。



松岩寺西北の標石

17 郷東の川市

毎年四月二十九日に松岩寺の世話で香東川の川市が郷東橋の南側西岸の河原で開かれていた。地藏菩薩を勧請して、流れ灌頂の法要を行う中、農道具や食べ物の露店が出て賑わっていたが、平成十九年を最後に開かれなくなった。春日川では今も開かれている。

灌頂は頭へ水を注ぐ、あるいは頂くという意味で、変死者の霊を弔うという仏教行事。

18

香東川鉄橋（こうとうがわ）

香東川鉄橋

南側の鉄橋が、明治三十年（一八九七）讃岐鉄道の高松・丸亀間が開通したときに架かった鉄橋である。近代的な香東川の橋は、鉄道が先行したといえる。

昭和二十七年（一九五二）に海側に現在の潮止めの堰ができたときに、橋桁がかさ上げされたが、その痕跡として西側堤防に取り付いている桁の石垣上にコンクリートが載っている。

さらに、北側には、予讃線が複線となったときに架かった新しい鉄橋もある。

19 「（こうとうがわ）」と「（こうとうがわ）」

香東川・郷東川という漢字の表記にかかわらず、弦打や旧高松市街地では、「（こうとうがわ）」と呼ばれているが、檀紙・円座以南の地域では「（こうとうがわ）」と呼んでいる。また、行政や国土地理院では「香東川Ⅱ（こうとうがわ）」と読んでいる。一方、漢

字の表記では、石清尾山・浄願寺山の西側部分を郷東川と記す場合もある。

現在の郷東橋は、明治期では香東橋と表記されていたこと、及び香東神社の扁額・表記から、戦前あたりまでは、地元では「香東」を「ごうとう」と読んでいた。

20 潮止め堰

旧国道十一号線以北の田んぼへの塩害防止のため、地元の要望もあって、昭和二十七年（一九五二）に高さを〇・六メートル上げた現在の堰が造られた。



潮止め堰

《参考文献》

● 『歩こう！訪ねよう！弦打再発見ノート』

平成二十七年三月 弦打校区コミュニティ協議会

● 『弦打風土記』

昭和四十四年三月 高松市弦打小学校PTA

● 『郷土史事典 笠居郷探訪 高松市鬼無香西下笠居の歴史／民俗／地名 第2版』

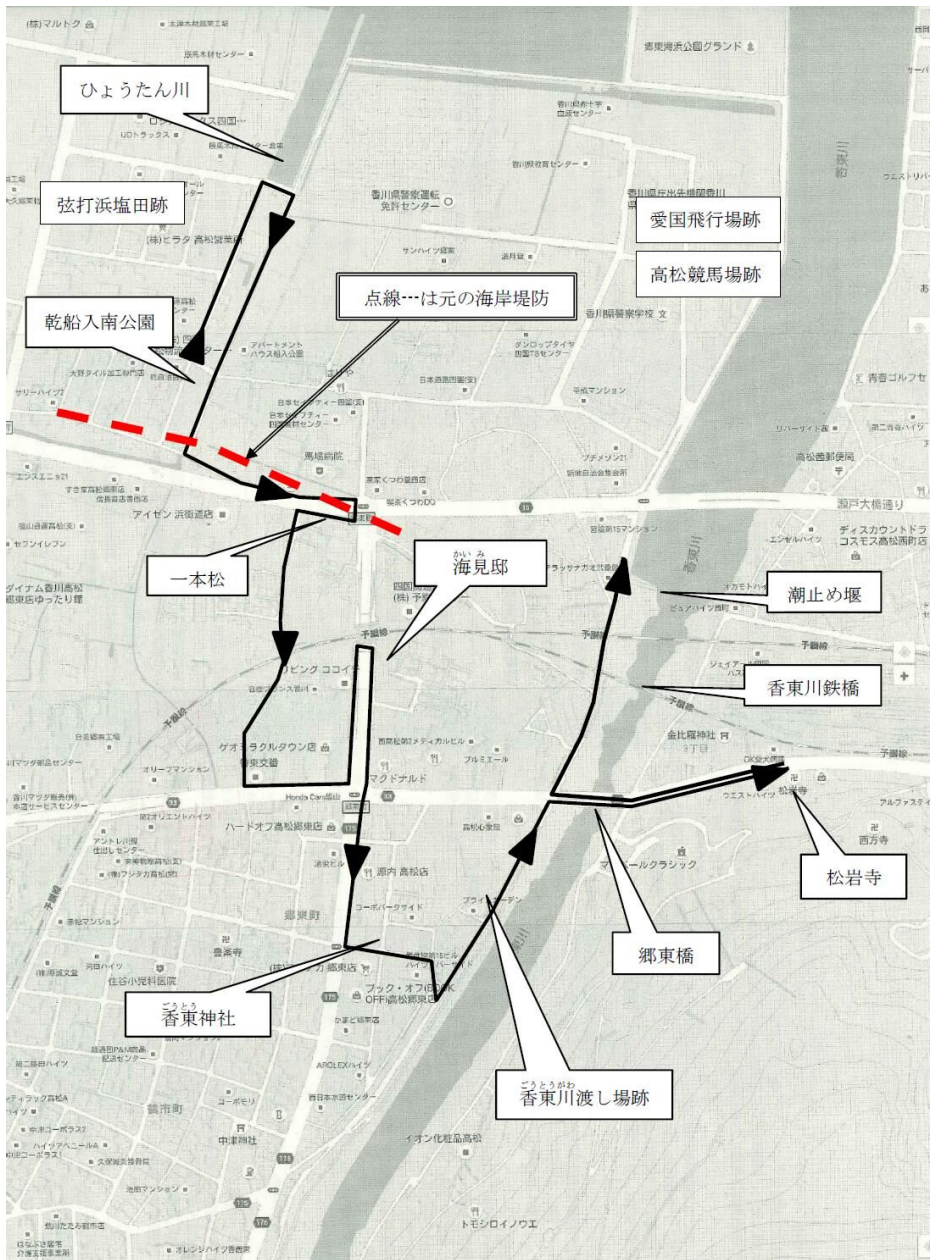
平成二十六年七月 立山 信浩

● 『角川日本地名大辞典37香川県』

昭和六十年十月 角川書店

● 『高松市の111年』

平成十三年十月 高松市歴史資料館



9月25日（日）郷東町からの復路

（解散場所付近には、二つバス停があります。）

◆ことでんバス香西線上り【解散場所より南側】

（郷東橋西） （高松築港） （高松駅）

12:13 → 12:32 → 12:34 着

◆ことでんバスイオン高松線上り【解散場所より北側】

（警察学校前） （高松駅） （高松築港） （瓦町）

12:15 → 12:25 → 12:27 → 12:35



次回のふるさと探訪は…

テ ー マ 庵治町の社寺を巡る（予定）

と き 平成28年10月23日（日）

9:30～12:00頃

集合場所 庵治コミュニティセンター

講 師 渡辺 寧さん（高松市文化財保護協会理事）

☆公共交通機関を御利用ください。

☆広報「たかまつ」10月15日号に開催案内を掲載しますので、御覧ください。

☆小雨決行。警報発令等により中止の場合のみ、

文化財課（TEL839-2660「午前7時30分～開始時間まで」）でお知らせします。（電話が通じない場合は、「実施」です。）

★次回の交通案内★

◆ことでんバス（庵治線下り）

（高松駅） （高松築港） （瓦町） （庵治学校前）

8:14 → 8:17 → 8:24 → 9:00

「ふるさと探訪」に 参加される皆様へ

※参加中は、次のことに充分留意し、
意義のある探訪としましょう。



- 1 交通ルールを守り、交通安全を心がけましょう。
(必ず歩道を歩き、歩道が無いところでは、
道路の端を一列で歩きましょう。)
- 2 無理をせず、体調には十分気を付けましょう。
- 3 引率者の指示に従い、整然と行動しましょう。
- 4 マナーを守り、他人に迷惑がかからないよう気を
つけましょう。
- 5 文化財や自然を大切にしましょう。